

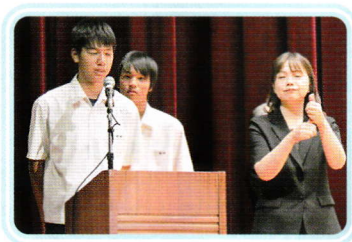


すたつか

苅田町青少年育成町民会議だより



平成26年度「少年の主張」福岡県大会in苅田町
「いま中学生が訴えたいこと」



「少年の主張」福岡県大会 開催!!

8月23日(土)苅田町の中央公民館大ホールにおいて295件の応募作品の中から選ばれた15名の弁士が、命の大切さ、家族の大切さ、国際化の社会の課題、将来の夢などを約5分にまとめ、熱弁を振るいました。

当日は、開催地苅田町・苅田町教育委員会をはじめ、苅田町青少年育成町民会議等関係者のご協力により、聴衆の心に響く発表者の熱弁と、アトラクションとして、「かんだ太鼓波動会」、片島小学校児童の皆さんによる“子ども神楽「おろち」”、「新津中学校吹奏楽部による演奏」をしていただき、本年の少年の主張福岡県大会は、盛会のうちに幕を閉じました。（関連記事P3）

心豊かでたくましい 青少年の育成を目指しましょう

11月は全国青少年健全育成強調月間

全ての青少年の健やかな成長を願って・・・。

朝の声かけ運動

10月17日(金)「朝の声かけ運動」で苅田中学校前に立ちました。3年生はこの日、中央公民館で高校説明会のため不在でしたが、普段よりとても少なく感じました。

1・2年生は、春の頃に比べると、一段としっかりと来て、次の苅田中を荷っている気配を感じました。「おはようございます」の挨拶を交わし、すがすがしい気分になりました。生徒たちは、今日も「いろいろなことを学ぶことですね」と頑張れと心でエールを送りました。楽しいことや、いろいろな知識を得たらそれを膨らませ、悲しいことや、いやなことがあったら、一人で悩まず、いろいろな人に聞いてもらいましょう。

苅田町青少年育成町民会議は、青少年を明るくのびやかに育てようとして、いつも子どもたちを見守っています。



苅田中学校 教育講演会

■演題 「ネットによる誹謗中傷・いじめ等の防止」

■日時 平成26年11月8日(土)

■会場 苅田町中央公民館 大ホール

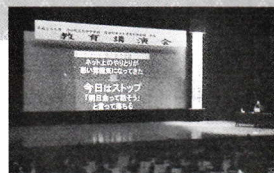
■講師 NPO 法人子どもとメディア

公式インストラクター 中村佳代子先生

現代の中学生にとって、スマホやSNSでのトラブルは大きな問題になっています。中学生・高校生のトラブルの実例を多く挙げながら、その中で、家庭でのルールとして「22時以降は使わないこと」がとても大切であり、トラブルに巻き込まれないようにする手段の1つだという話でした。そして、もしトラブルに巻き込まれそうになったときは、親や大人に相談し、早めに対処することが大切だということでした。

最後に、生徒会長の井本あかりさんが謝辞の中で、「自分はトラブルに巻き込まれないと思っていたが、そうではなくスマホのトラブルを自分の問題としてとらえ、もしトラブルにあったときは、先生の話を出し、対処していきたい。」と話をしてくれました。

休日にもかかわらず、多くの保護者が出席してくださり、スマホやネット犯罪について考えることができました。そして、子どもたちをネットトラブルから守るためにも、子どもたちと保護者と一緒になって考えることの大切さを学ぶとても有意義な教育講演会でした。



<生徒の感想>

●私は先日の講演会を聞いて、ネットの怖さを改めて感じました。私もスマートフォンを持っていて、それを当たり前のように使っていました。だから、ネット依存やその危険性を聞いたときとてもびっくりしました。

LINEでのグループトークやタイムラインによる事件やめ事が起こっていることを知らなかったのも、もっといろんなことを知りたいと思いました。スマホやネット依存になってしまって、大切な家族や友人を傷つけてしまうことのないように、自分で自分をきちんとコントロールできるようになりたいです。

スマホを持つこと自体は悪いことではないと思うので、「正しく使う」ことを心がけたいです。この講演を聴けて良かったです。ありがとうございます。

(3年生女子生徒)

●私は、教育講演会を聞いて、スマホの怖さを学ぶことができました。

私はまだスマホやiPhoneを持っていませんが、中村先生が話してくれた実際にあったトラブルの話や、スマホを使うことが怖くなりました。私がスマホを持ったら、使う時間を決め、先生が教えてくれたことをしたいと思います。

(3年生女子生徒)

少年非行・シンナー等薬物乱用防止講演会

演題 『心の声が聞こえていますか』

日時 平成26年7月31日(木)

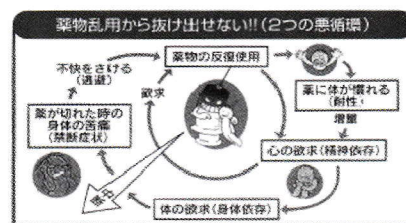
会場 苅田町中央公民館 第5研修室

講師 福岡県警察本部生活安全部少年課

飯塚サポートセンター巡查長 湯口 晴菜 氏

講演内容は、健康や生命を危うくする薬物乱用について、正しく理解し、子どもたちを守るためには、家庭、学校、地域住民、関係団体などの連携がより一層重要になってくるといったことを主なテーマとし、ご講演をいただきました。

当日大変お忙しい中、ご参加をいただいた皆様ありがとうございました。



依存性：一回ぐらいならと思って、また使いたくなり、繰り返し使ううちに薬物の使い方のコントロールがきかなくなってしまうこと。

耐性：使用を繰り返しているうちに、それまでの量では効き目がうすれていくこと。

「平成26年度少年の主張福岡県大会」

県知事賞を受賞し、全国大会に選出されました、飯塚市立飯塚第1中学校3年山本由菜さんの内容をご紹介します。(関連記事P1)



子は宝、自分の命より大切なもの

福岡県 飯塚市立飯塚第一中学校 三年 山本 由菜

生まれたばかりの赤ちゃんを抱き、若いお母さんが感動の涙を流す姿をテレビなどで見たことがあると思います。ここにいる私たちも生まれたことをたくさんの人に喜んでもらいたくさんの愛情に包まれてきたはずですが、ところがいつの間にか、親に反抗したり、親の言葉に耳を傾けなくなってしまうんです。

私もいつの頃からか父の一言にイラッとして、「そんなこと言わなくても分かっている。」と思うことが増えてきました。しかし、それを言葉にしたことはありません。それには、理由があるからです。

私は今、父と弟と3人で暮らしています。母は、白血病にかかり、去年、四十四歳で天国へ旅立ちました。しつけには厳しい母でしたが、たくさんさんの愛情を注いでくれました。私が落ち込んでいた時も、楽しくて仕方のない時も、話を聞いてくれました。常に私の隣には母の笑顔があり、今でもその笑顔を思い出さない日はありません。

日が経つにつれ、入院していた母の病状は悪化していききました。とうとう自分の力では立つことも、歩くこともできないようになりしました。

母は、毎日日記をつけていました。その日記は、薬の副作用の吐き気やだるさ、死ぬことへの不安など赤裸々に綴られていました。その中に、「きつい。でも子どもたちのために病気に勝たなきゃ。子どもたちの笑顔が見たい。」と書かれてあるのを見つけた。読んだ瞬間、涙があふれました。苦しい治療に耐えながら、私たちのことを思っていて病室に耐えていると胸が締め付けられるようでした。

私が病室を訪ねると、母は、やさしく細い手で私の手を握ってくれます。細い手から伝わる母のぬくもりを感じながら、あとのくらくらとした居るのかと考えると、急に悲しくなり、母の前で泣いてしまいました。母も私を見て泣きました。私は、泣きながら母の涙を拭いてあげました。すると「由菜の笑顔が一番の薬だから笑って」と言いました。私は泣きながら精一杯笑ってあげました。

それから一週間、何をしても母のことしか考えられませんでした。担任の先生から、すぐ病院に行きなさいと言われた時、今まで感じたことのない嫌な予感がしたことを覚えています。病院へ向かいながら涙が止まりませんでした。

だんだんと母の体が冷えていくのがわかりました。そして、家族に見守られながら、息を引き取りました。母の心臓が止まった後も私はずっと手を握っていました。もつと二階に上げてあげれば、もつとありがたそうを言えばもつとお母さん大好きだよと伝えればよかったと心の中で考えながら。

母のおかげで、今まで以上に人の気持ちを考えられるようになりました。私には十四年間という少ない時間の中でしたが、たくさんさんの愛情を注いでくれた母がいたので、家族で協力しあいながら、今は毎日笑顔で過ごしています。母がいなくなった代わりには父が家事をしてくれています。また父も、中学三年生の娘にどう接していいのかと悩んでいて、とても文句を言ったり反抗したりすることはできないのです。父にはとても感謝しています。毎日疲れているのに必ず夕食を作ってくれます。母のような優しく包み込んでくれる愛情ではないけれど、子どもや家族を守つていこうという愛情が伝わってきます。これからは母がくれた愛情を忘れずに、父と弟と三人で力を合わせて母の分まで頑張つて生きていきます。

中学生にもなれば、親や周りの大人に反抗したこともあるでしょう。だけど、あなたのその言葉や態度が愛情を注いでくれた親を悲しませたり、傷つけたらすることに気付いてください。あなたを一番近くで見守ってくれている、かけがえのない存在なのだから。

母の日記の最後のほうにこんな言葉が残されていました。「子どもは宝で、自分の命より大切なものだから」と。皆さんも親の愛情に気づき、家族を大切にしてください。

平成26年度苅田町「家庭の日」オアシス運動」コンクール入賞者発表

馬場小2年 玉井 江利花	南原小5年 野川 ひな
南原小3年 栗屋 光希	南原小5年 川崎 愛理沙
南原小3年 岩田 崇志	南原小6年 大熊 リコ
南原小3年 安東 薫彦	南原小6年 福山 祐輔
南原小3年 村上 明優	南原小6年 霞田 大成
南原小4年 西村 まどか	南原小6年 中村 奏美
南原小5年 堀 咲夢子	南原小6年 梅林 芳野
南原小5年 時苗 真綸	南原小6年 杉下 奈美佳
南原小5年 中園 庸介	



馬場小1年 松堂 翔太



白川小5年 高山 すず



白川小5年 小川 杏華



白川小6年 田中 優雅



白川小5年 谷 響



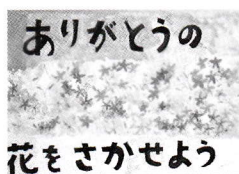
白川小5年 廣瀬 心春



馬場小5年 金澤 蒼



馬場小1年 宮崎 優芽



馬場小5年 時本 愛子



白川小6年 廣瀬優美菜



★すべて《奨励賞》
(敬称略、順不同)

テーマ 子どもたちへ「星と宇宙」 子どもフェスティバル開催

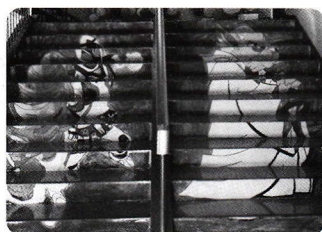
2014.10.19

子どもたちの体験!

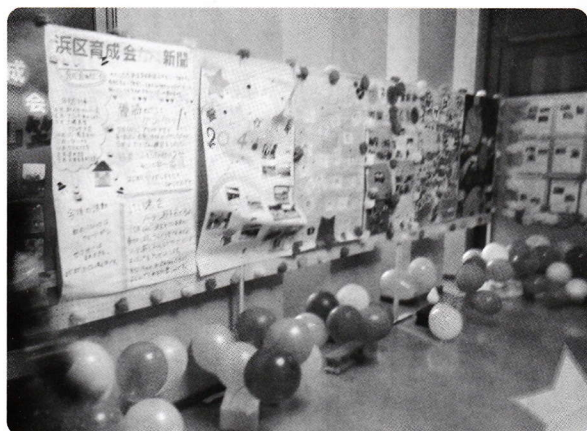
沢山の子どもたちが来てくれて、とても嬉しかったです。
荻田山笠も来てくれていました。子どもたちの祭への熱き思いを感じました。今回もすべて、子ども会の役員・連合会のスタッフ・ジュニア・リーダー等で作りました。

発表・展示・射的・などなど未熟ではありますが、頑張っていました。祭の楽しさ、商品売る難しさなど体験していました。

ふりかえりをした時は、売れない事に不満のようでしたが、なぜ売れなかったのか・・・次回は答えを出すそうです。この体験をまた次の子どもに繋げて欲しいです。(育成会田口) (関連記事P6)



ジュニアリーダー達の階段張りの絵▲



◀連合会のスタッフのアートです。



募集

中高生のジュニアリーダーの皆さん活動を広げよう..



バァ〜バァの一言

No.30



子どもの姿にズームイン!!

子どもたちを見ていると、いろんなことが知らな過ぎます。危険に対しても無知です。場の空気が読み取れません。これでいいのかなあ〜?体験不足ってことかなあ?でもね、ゲーム(機)はとても上手なのよ。

「そんな事も知らんの?」って、いつも怒られているバァ〜バァ〜です。

次世代の子どもたちには「さんま」が無いらしい。さんま!あのおいしい秋のさんま?ここの「さんま」とは、「時間 空間 仲間」の3つの間のことを言うそうです。頭の良い人はなんでも考えるね。学校では土曜日が休みになり、一年生でも六時間があるそうです。近所などで、集団あそびの時間は無い、塾や習い事で忙しい、余暇はゲーム機、あそび空間(場所)は、車社会で取られてしまっています。公園は狭いし、ボール投げやかくれんぼなど出来ません。自然とひとりあそび、ゲーム機に繋がります。また仲間では、多くの子どもがゲーム機であそんでいます。

昔は、兄弟等が七人〜九人といて、ケンカが絶えませんでした。七番目の私は、なんとか兄を泣かしたくて、いろんな手を使うのですが駄目でした。反対に母から、「あなたがいらんことをするから、泣く目になるのよ」と怒られました。母たちの子育ての大きさを感じました。危険回避、他者へのきずき 発言の力、創造力を育てましょう..その為には、かわいい子には旅をさせましょう。いろんな体験をさせましょう。それと大事なことは、体験をふりかえってみましょう。そうしたら前向きなやる気のある子に育つかな...

新津中学校

新津中学校は、全校児童は475名、職員は32名の規模で、
毎日明るく元気に過ごしています。

新津中学校では



自ら学び、豊かな心・たくましい身体で 生き抜く生徒の育成



を目標に挙げています。その目指す生徒像は次の4点です。

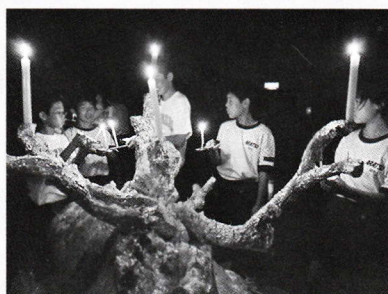
- 学校生活の基本ルールを守り授業に集中して意欲的に学ぶ生徒
- 生命を尊重し、感謝と奉仕の心を持って自他の人権を大切にする生徒
- 健康で公正な判断力と行動力を持つ生徒
- 自己実現に努め創意工夫を持って未来を切り拓く生徒



をスローガンとし、新津中学校では、次のような取り組みを中心に生徒を育てています。

1年生 宿泊体験学習

8月4日・5日の一泊二日で
大分県の「香々地青少年の
家」で様々な体験を通して
友達や先生とのふれあいを
深めていきました。



2年生 職場体験学習



荻田町内を中心にいろ
んな職場で実際に働く体験を
させていただきました。



3年生 高校出前授業

行橋高校の先生とポプリ作
りをしました。緊張したけど
楽しかったです。



東九州龍谷高校の先生と、
だんご作りをしました。とて
もおいしかったです。



『放課後子どもひろば』紹介㊦

町内6校の小学校を順に紹介させて頂きます。今回は、片島小学校です。



新しく開通した東九州自動車道のトンネルの上でパチリ♪
とっても景色がいい場所です！

《活動の様子》

小規模校の片島小だからこそ、異学年の交流が盛んです。みんなとても仲良く、自然の豊かな地区ならではの活動を楽しんでいます。



地域の方々との交流！公民館まつりへ飛び入り参加して餅つき体験♥



最高の散歩道です！



放課後子どもひろばよりお知らせ

子どもひろばは自動継続ではありません！来年度も子どもひろばの利用を希望される方は、年度末に行われる登録説明会へ参加してください。詳細はひろば便りにて知らせします！



苅田町役場 子育て支援課
TEL 093-588-1036



子ども
フェスティバル
「木工教室」
(関連記事P4)
「カメラスケッチ」

編集・発行
苅田町青少年育成町民会議
すこやか編集委員会
☎ 093-434-9838

毎月第3日曜日は
「家庭の日」



編集長 松枝 玲子
尾田 弘子
濱田満里子
田口 朝子
金丸 晴樹
井上 裕介

平成26年度すこやか編集委員

金丸 晴樹

「規模の経済」という大量生産、大量消費の考え方がありますが、経済的には正しいのですが、資源的には「無駄」も考えられます。残りの人生「もったいない精神」で過ごしたいものです。

編集後記

今春、定年を迎え、半年が過ぎました。退職は長い人生の中で、大きな節目です。無職になって、現役の時には思いもよらない発見がありました。身辺整理中に出てくる「無駄」です。今となつては、不用品物ですが、思わず金目に換算してしまいます。経済原則に「規模の経済」という大量生産、大量消費の考え方がありますが、経済的には正しいのですが、資源的には「無駄」も考えられます。残りの人生「もったいない精神」で過ごしたいものです。